

校長室だより

共学共高

第
54
号

令和5年9月12日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

第60回 白梅祭～クラス編

前号は、部活動の企画を中心にお届けしたが、今回はクラス企画をご紹介したい。とはいっても、すべての企画について触れるのはなかなか大変なので、印象に残ったことを中心に述べさせていただきます。

まず、昭和生まれの私のハートをキャッチしたのが、3年1組の「サンノイチ商店街」だ。準備の段階から昭和レトロな看板などを製作してカウンターに並べてあったので、校内巡回の時に気になっていた。飲食店ではあるが、外装や内装にも凝っていて、なかなかの造りである。私は、ナポリタン、カレーパン、名前は忘れたが、焼き菓子のセットを注文した。準備の時に3年1組を訪れた際、Yさんが「校長先生は昭和の歌手で誰が好きですか？」と聞いてきたので、「松田聖子」と即答した。Yさんは「いいですね」と答えて、「曲は何が好きですか？」とも尋ねるので、「赤いスイートピーだね」と応じる。Yさんが「いい曲ですよ」と言いながら、歌ってくれた。何で知っているのだろう、私が20歳のころに聞いていた曲なのに、とつぶやくと、「今は結構、昭和レトロブームがあるのですよ」と教えてくれた。感動である。「あなたの生き方が好き」なんて言われたら、昭和の男は胸キュンものである。（校長室だよりらしくなくなってきたので、この辺でやめておこう）私が3年1組を2回訪れたときに、松田聖子の曲を流してくれてありがとう。素敵な企画、装飾でした。公開日にも早々に売り切れることなく、適切に仕入れてくれていたこともよかった。



3年9組の「CASINO999」も昨年と同じ企画をさらにバージョンアップしたものであった。受付でコイン（金貨仕様）3枚を受け取り、中へ。まずは、先生たちを競走馬に見立てた競馬である。先生たちの演技力も大したものだが、裏の裏を読む生徒たちのオッズ等の設定にもしてやられた。私は1回目に3学年主任のS先生に、2回目に2学年担任のG先生に賭けたが、いずれも期待を裏切られた。去年はここでコインを10枚以上に増やしたのに。代わりにルーレットで倍に増やしたが、クイズで正答できず、ブラックジャックで敗れ、結局コインは3枚のまま出口へと向かった。クイズの際に、隣にいた卒業生と思われる女性が、「私、理工学部だからこういう問題はダメ」と言いながら、正答していたのには驚かされた。また、別の図形の面積を求める問題でも、隣の白梅生がいち早く求めて正答していた。計算力も私よりずっと速い。3年9組の生徒たちの衣装もきらびやかであった。



2年6組の「禁断の仮面舞踏会」もなかなかの企画だ。教室内で完結するのかと思ったら、「仮面をかぶって事件にかかわる白い布をもった人」を校内で探さなくてはならない。廊下で仮面をかぶった生徒を見つけたので、「白い布は？持っていないのかい」と聞いたら、「私は持っていません」と言われてしまった。ダミーまで投入しているとは。でも、結局容疑者に出逢うことはなかった。残念である。

2年5組の「FANCY FAIRYTALE」は、唯一の演劇であり、連日満席であった。公開日には立ち見の方も数多くいて、白梅生がどのような演劇を見せてくれるのか、関心の高い方々が多かったようだ。いくつかのおとぎ話をクロスさせて、オリジナルの脚本をつくったようだ。舞台をつくったのも観客にとっては見やすくてよかった。場面転換やセット、照明もなかなかである。キャストも個性的である。お菓子の家の「・・・ホイップクリーム」というセリフはよく覚えられたなどと思うし、観客にも受けていた。ダブルキャストを用意したのも、公演回数を増やす上で大切なことだ。終演後のキャストたちの表情から、満足度が高いことが伺える。



1年生も健闘している。1年7組の「SHOW 化器官を見体内」は教室内を人体内に見立て、細菌をやっつける的あてや、もぐらたたき、2択クイズなどをこなしながら、ゴールを目指す企画である。的あての際、私はハンドボール部の生徒3名と一緒のグループとなった。恐ろしく速い球を投げ、あっという間に最高得点をたたき出してしまった。さすがに全国制覇をしているハンドボール部である。次に待機していたお客さんが「ハンドボール部はんばない」とつぶやいていた。このクラスでは、準備段階からMさんが活躍している様子を見ていた。当日も受付で大きな声を出して集客していたのが、印象的であった。

1年1組の「下平病院」は、廃病院内に閉じ込められた少女を救い出すというホラー企画である。私は校内発表の午前中に体験したが、うまく少女を救い出すことができなかった。それらしい少女を見つけたのだが、「私が生きているとは限りません」などと言われてしまったのだ。夕方、校長室にいと、1年1組の生徒が訪ねてきた。「校長先生、さらにバージョンアップしたので、もう一度いらしてください」というではないか。すぐさま駆けつけて中に入ると、確かに怖い。無事に少女を見つけて連れて帰り、出口へたどり着いたその瞬間……やられた。多少のことでは動じない私も思わず声を上げる。このこだわり、頑張りがいいではないか。



みなさんが体験されたかどうかはわからないが、1年6組の「いちろく横丁」の企画の一部で、「宝物の入った箱の鍵を探すミッション」をこなすものがある。私は一人で並んでいたのだが、割と待ち時間があったので、後ろに並んでいた中学生と保護者の方に身分を明かして一緒に回りませんか、と声をかけてみた。快く引き受けてくださったので、中学生をメインにしてサポートすることにした。ミッションの書かれた紙にしたがって、さまざまな物を探して、新たなミッションをクリアして、鍵のありかにたどり着くのである。よく考えられた企画だと感心した。嫌がることなく一緒に回ってくださった中学生と保護者の方に感謝申し上げます。入学された暁には、「あのときの・・・」とお声掛けください。



どこへ行っても生徒たちの表情は、生き生きとしていた。クラスや部活動で協働して創り上げた文化を表現する活動を通して、お互いに楽しみ、元気をもらう機会となってくれていることを願わずにはいられない。学校行事を通して、生徒たちは成長していくのである。

すべての片づけが終わり、校内を巡回していると、カウンター席に座っていた二人の生徒が、ため息をついて「疲れたー」とつぶやいている。私も「本当に疲れたね」と声をかける。何気なく過ごしていたら出てこない言葉であろう、やりきった生徒ならではの言葉である。

その後、校長室でパソコンに向かっていると、思わず首をうなだれてしまったようだ。「校長先生、一緒に写真を撮ってください」という3年生の声で目が覚めた。私にとっても充実した3日間（前日準備を含めて）であった。（おわり）

（共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）